

図1 今日、一緒(共)に考えたいこと

共食は、「食育推進基本計画」でも推進のキーワードに挙げられ、重視されてきた。

しかし今、COVID-19感染予防の視点から「三密回避」「黙食」「マスク会食」等が優先され、共食回避・後回し。

正解が見つかりにくい緊急時だからこそ、**共食の実力発揮のチャンス！** あなたはどう考えますか？

(1) 「共食」とは何か？ どうとらえてきたか？ 共「食」については？

さまざまな「共食の概念」や「共食様式」を全体俯瞰できる図、「共「食」の地球地図」があるといい

(2) 「共食」のゴールは何か？

SDGsのような懐の広い、深い、そしてゴールへの入り口が多様な、

それぞれの考えや事情に合わせて、入りやすい**“身近な入口”**がたくさんあるといい

(3) さまざまな考え方・生活・環境の中、

自分(たち)自身はどうとらえ、何をゴールにするか？ どう実現するか？

◆Mは、1960年代に、“人間らしい食とは？”を探し「食生態学」と名付けて答え探しをする中、日常的に「家族と一緒に食事をする」パワーに気づき、「共食・孤食」実践と研究をすすめてきた。

ふり返ってみると、共食もSDGsも両方とも、その原風景は、生まれ育った“東北”にあることに感謝している。

低所得で、大家族だから、全員が寄り合って、分け合って食べる食事、気候が厳しいので、それぞれの地域で、それぞれの家族が工夫しあって作る「1年単位の」生産計画や生活計画。だから無数に近いほど料理法や保存法が生まれ、進化していく。そうしたやり方を小さい時から大人たちと一緒にやって、いつの間にか覚えてきた。これは世界各地の人々や家族が、生活・地域・環境変化との**よりよい、うまい共生**を模索しながら、作りだし、その地域らしさやその家族らしさを育ててきているのと同じに、見える。厳しい環境ほど、矛盾が多く、解決が難しいから、よりよい、うまい共生の知恵が育つのもかもしれない。